

6 留意事項等に対する履行状況等

区分	留意事項等	履行状況	未履行事項についての実施計画
設置時 (26年4月)	1. 本学部に現代社会学科と社会防災学科の2学科を設置する理念、特色について整理し、特に以下の点について受験生等全ての関係者が理解できるように適切に周知するとともに、教育課程の充実に努めること。		
	(1) 両学科の関係について混乱する懸念があることから、どのような理念や特色のもとに、両学科が同一学部の中に置かれているかについて整理し、全ての関係者がその相違を理解できるよう適切に周知すること。	留意事項 統一的な学部コンセプトのもとに両学科が並存していることの意味・意義を大学・学部広報誌等で説明を行うとともに、両学科共通科目である入門ゼミナールを利用し、7月に学部開設記念式典及び記念シンポジウムを関係者及び学部生列席のもと実施した。また12月に矢田前神戸市長の講演会、1月に阪神淡路大震災20年の学生参加型学部統一シンポジウムを開催し、それぞれ一般市民にも開放し、学部理念と両学科の特徴を説明する機会を設けた。この学部統一シンポジウムは平成27年度にも開催する準備を行っている。	
	(2) 現代社会学科では「日常あるいは平常時の地域社会諸側面における課題」、社会防災学科では「非常時への事前・事後の社会的な備えの対応に関する諸課題」を解決できる人材養成をそれぞれ掲げているが、平常時であってもリスクに備える必要があり、非常時であっても平時からの地域社会活動が意味を持つなど、平常時と非常時で単純に区分し難い側面があるため、養成する人材像を再構築し、それを反映した教育課程について不断に検証しつつ、特色ある教育課程の充実に努めること。	留意事項 全学レベルの自己点検評価委員、両学科教員からなる学部内自己点検評価小委員によって自己点検がなされ、その中でいわゆる学部教育理念に基づいたAP、CP、DPIについては現状はその周知と広報が優先的になされるべき段階であり、養成する人材像を含んだその再検討及びそれに基づいた具体的なカリキュラムの変更は平成30年度以降の実施に向けてやや長い目で学部及び両学科内で検討することで合意を見ている。 ただし、指摘にもあるように、両学科の養成人材像が相互補完的であることは認識されており、学部共通科目を通して、また学部統一的なシンポジウムの開催等により、お互いの学科内容の共通性にふれる機会の提供を積極的に展開している。	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>2. 養成する人材像として掲げる、国際的視野とその経験を備えている人材が養成されるよう、語学教育科目について、学生に対し教育課程の順序性を踏まえた体系的な教育課程となっていることを明確にするとともに、履修指導を適切に行うよう努めること。</p>	<p>留意事項 平成26年度専門英会話の履修者数は、学部合計の数値となるが、専門英会話Ⅰが186名、専門英会話Ⅱが167名と80～90%を学生が履修したのに対して、平成27年度前期では専門英会話Ⅰが164名、2年次配当の専門英会話Ⅲが122名、時事英語Ⅰが43名の履修者数となっており、昨年同様に1年次生そして2年次生ともに、80%ほどが履修している。その内容及びレベルは、専門英会話Ⅰから原則として系統的に上昇させるようになっており、ほぼ80%の学生についてはその意味において段階的な履修を行っているのとらえることができ、適切な履修指導が実現できているものとする。</p>	
	<p>3. 「法律学の基礎Ⅰ」は憲法を扱うこととなっているが、「法と社会Ⅰ」、「法と社会Ⅱ」の内容と重なるため、整合性を図る必要があり、また、「法律学の基礎」と銘打つ以上、「法律学の基礎Ⅰ」、「法律学の基礎Ⅱ」は憲法、行政法等の公法だけでなく、社会防災に関わる私人間の法律問題への理解、対応のあり方を学ぶためにも、民法、民事訴訟法等の私法領域を含めた、法体系全体を対象とする授業内容にする必要がある。このため、「法律学の基礎Ⅰ」、「法律学の基礎Ⅱ」の授業内容について見直しを図ること。</p>	<p>留意事項 「法律学の基礎Ⅰ・Ⅱ」の内容につき再検討を行ったが、双方ともに公法だけでなく、民法、民事訴訟法等私法領域もカバーするには、(1)必然的にそれぞれの科目の授業内容の希釈化とならざるをえない、(2)法律学の基礎Ⅲ・Ⅳ」等設置科目の追加をすれば学部共通科目数が肥大化し、学生の履修が分散しかねないといった危惧が兼任教員との会議において出され、さらに検討を重ねることが望ましいとの結論に至った。したがって、平成27年度については提出した授業内容で開講している。「法と社会Ⅰ・Ⅱ」との整合性についてとともに今後とも検討を重ねる予定である。</p>	
	<p>4. 単位互換科目の読み替えについて一覧が示されているが、英語等の基礎科目も含まれているため、実施に際しては、学科設置の趣旨・目的等に照らして適切な科目とすること。また、読み替え科目間に互換性があるのか懸念があるものがあることから、適切な読み替えとなるよう読み替え科目の内容を精査した上で実施すること。</p>	<p>留意事項 神戸ポートアイランド4大学連携単位互換制度に基づき、シラバス内容等を十分に精査したうえで開講している(別紙参照)。</p>	<p>単位互換科目については、平成26年度から発足した共通教育センターの各分野を担当する専任教員(分野主任)を中心に検討する。</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>5. 「地域学講義Ⅰ～Ⅷ」については、体系的に学修できる内容となっていないことから、専門性及び体系性の観点から講義内容を見直し、確実に実施すること。</p>	<p>留意事項 1年次配当科目である地域学講義Ⅰ（兵庫学入門）、地域学講義Ⅱ（明石まちづくり学）、地域学講義Ⅲ（神戸学入門）については、後期に開講を予定している。2年次配当科目である地域学講義Ⅳ（兵庫県下の地域と文化）、地域学講義Ⅴ（明石の歴史と文化）、地域学講義Ⅵ（神戸人物誌）、地域学講義Ⅶ（明石の地域資源とその利用）、地域学講義Ⅷ（ハイカラ神戸の実像、神戸の歴史）については、本年度の履修登録の結果、その全てを開講している。以上のように、各科目の内容が分かるサブタイトルを明示して開講している。</p>	<p>「地域学講義Ⅰ～Ⅷ」については、平成26年度から発足した共通教育センターの各分野を担当する専任教員（分野主任）を中心に、各科目の内容が明確になるような科目名への変更を検討する。</p>
	<p>6. 「ボランティア・インターンシップⅠ」、「ボランティア・インターンシップⅡ」、「インターンシップ」について、選択必修科目として位置付けられているが、定員を充足できるだけの実習先が確保されているか不明であることから、学生の履修に支障のないよう実習先を確保し、確実に実行するとともに、それぞれの科目の定員、実習先及び実習先の定員についてはあらかじめ学生に周知すること。</p>	<p>留意事項 まずボランティア・インターンシップについては、両学科2名ずつの教員で構成される運営委員会を組織し、全学教員の協力の下インターンシップ先の確保に努め、後期に複数回受け入れ可能な団体も含めて、両学科2年次生ほぼ全員分の受け入れ先開拓及び確保を行い、学生にもその旨通知し、2年次生95%の出席のもと説明会を開催した。 なお、ボランティア・インターンシップⅡは学生自らがボランティア受け入れ先を開拓することとしてボランティア・インターンシップⅠの上級版として設定していること、また（企業）インターンシップについては、現在学部独自の受け入れ先を開拓中であるが、その性格上定員制となる可能性が高いことが予想されるため、卒業要件を満たすために、可能な限りボランティア・インターンシップⅠを履修・習得することが望ましい旨、上記説明会において学生に周知している。</p>	
	<p>7. 語学教育の実施体制について、現代社会学科における英書講読、社会防災学科における専門外書講読担当だけではなく、語学教育の担当者も中心的な存在となって語学の授業体系をコーディネートするような体制に改めること。</p>	<p>留意事項 専門語学科目担当教員及び教務委員と兼任教員との検討会議を持ち、履修・学修状況の検討を行い、クラス編成の再検討を行った。共通教育における語学教育については、共通教育センター委員、専門語学科目担当専任教員及び教務委員を通して語学兼任教員とのコミュニケーションを図り、学部語学教育の内容の点検及び充実を図る予定である。</p>	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>8. 教員の負担について、担当授業科目の削減など具体的な負担軽減策が講じられておらず、依然として教員の負担が極めて重いと思われ、教員の研究時間の確保、学生指導の質の低下が懸念される。このため、各教員が研究活動、学生指導等を十分に行うことができるよう、大学設置基準第10条の趣旨を踏まえつつ、実質的な教員負担の軽減を図ること。</p> <p>また、教員の負担軽減として実習助手を採用する計画だが、実習の質が担保されるような専任教員との連携体制を構築し、着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p> <p>大学設置基準第10条の趣旨をふまえ、学部内において主要授業科目以外の授業科目につき兼任教員に依頼することを現在検討中であり、そのことを通じて、カリキュラムの履行を妨げない限りでの専任教員負担の実質的な軽減を図る予定である。</p> <p>今年度より実習科目が増加するが、実習助手も5名体制となり、実習運営にかかる会議は各実習科目担当教員と実習助手を交えて開催されており、両者の連携体制はとれている。ただし、現代社会学科における実習科目（現代社会基礎実習）の内容自体は各教員（群）及びその担当分野によって異なっているので、それぞれにおいて実習運営についての会議を行っているのが実態である。</p>	
	<p>○留意事項1（2）を実施する際には、平時・非常時といった単純な二項対立によって機械的に説明するのではなく、例えば安全な社会をつくるための基礎と応用、実践や社会貢献の役割などを重層的に取り上げていくことが望ましい。</p>	<p>その他意見</p> <p>現段階においては、それぞれの学科専門教育科目を関連科目として履修可能なように設定して、指摘意見に対応しようとしている。この関連科目を履修する学生も一定程度存在していることがわかっており、より体系的に両学科の科目を学修できるよう、カリキュラム変更の一部として学科関連科目の再設定を平成30年度以降の実施に向けて再検討する予定である。</p>	
	<p>○語学科目について、現代社会学部の養成する人材像の特色に対応するような語学力を身につけさせる授業内容とすることが望ましい。</p>	<p>その他意見</p> <p>平成26年度においても、また平成27年度前期においても、1年次、2年次ともにほぼ80%の学生が専門英会話を履修あるいは履修し続けており、語学力育成に関する教育理念の枠組みは実現できている。</p> <p>その内容についても、専門語学科目担当教員及び教務委員である専任教員が兼任教員と検討を行い、学生の英語レベルの実態に合わせると同時に、かつ学部の養成人材像にあった教育内容となるようその検討を行った。</p>	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	○社会貢献の一つとして災害弱者への配慮が必要であることから、例えば日本語を理解できない者に対応できる人材の養成などの観点を語学教育に盛り込むなど、今後、教育課程の充実を図ることが望ましい。	その他意見 専門講義科目においては、ダイバーシティの観点を盛り込んだ講義科目を両学科とも配置しており、1年次では「多文化共生」（現代社会学科）、「国際協力論Ⅰ」（社会防災学科を開講実施、2年次においてもその充実を図ることとする。また、専門教育科目である専門英会話等語学系科目では、その内容についても、専門語学科目担当教員及び教務委員である専任教員が兼任教員と検討を行い、学生の英語レベルの実態に合わせると同時に、かつ学部の人材像にあった教育内容となるようその検討を行った。	
設置計画履行状況 調 査 時 (27年3月)	該当なし		

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<現代社会学部 現代社会学科、現代社会学部 社会防災学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況【資料1参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学的な組織として、自己点検評価委員会のもとに、自己点検評価小委員会を設置している。（構成員3名以上） ・全学的な組織として、教育開発センターのもとに、学部FD部会を設置している。（学部FD部会委員1名） ・現代社会学部の内部組織で、オムニバス必修科目の成績評価についてタスクフォースを設置した。 ・現代社会学部の内部委員会で、ボランティア・インターンシップ運営委員会を設置した。 ・現代社会学部の教授会が運営された。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価小委員会は、平成26年度は、メール会議も含め5回開催した。 ・学部FD部会は、平成26年度は、4回開催した。 ・タスクフォースは、教授会準備会やメール会議で検討した。 ・ボランティア・インターンシップ運営委員会で検討した。 ・現代社会学部教授会を、原則月2回開催した。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価小委員会 現代社会学部が所管する事項について点検・評価を主体的、かつ、具体的に実施するための事項。 ・学部FD部会 教育の質向上及び教育の改善を図るために行う活動を支援するための事項。 ・現代社会学部教授会 オムニバス必修科目の成績評価について、ボランティア・インターンシップの運営について、成績表にGPA計算による学生の学部順位表記について、検討した。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価小委員会「中間報告書」「年次達成度報告書」を作成した。 ・学部FD部会「FDセミナー、FDワークショップ企画」「授業改善アンケート」「学生とFD部会委員との懇談会」「新任教員ガイダンス（教育開発センター主催）」「FD予算の割り当てによる学部FD活動の推進」 ・現代社会学部「オムニバス必修科目の成績評価について」「ボランティア・インターンシップの運営」
--

「成績表に、GPA計算による学生の学部順位表記について」検討した。

b 実施方法

- ・現代社会学部の自己点検評価小委員会を、細則に従い開催した。
- ・学部FD部会主催の「FDセミナー、FDワークショップ」「授業改善アンケート」「学生とFD部会委員との懇談会」については、全学的に実施のため、現代社会学部においても学部FD部会の指示を得て実施した。
「新任教員ガイダンス（教育開発センター主催）」については、教育開発センター所長・教務センター所長から、現代社会学部新任着任実習助手に対し、教育全般に関する事項について説明を受けた。
「FD予算の割り当てによる学部FD活動の推進」については、教育開発センターからのFD関連セミナー等の案内があり、参加した。今後、現代社会学部の学部FD活動において有効に活用できるように、学部FD研修等を計画する。
- ・現代社会学部のオムニバス必修科目の評価は、平成26年度後期より、実施した。
- ・現代社会学部のボランティア・インターンシップについて、平成27年度からの運用を検討した。
- ・現代社会学部の学生の成績表に、他学部でも採用しているGPA計算による学生の学部順位表記について検討した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・現代社会学部の自己点検評価小委員会では、2カ月に1回以上開催した。今後も、認証評価機関が定めた大学評価基準に基づいて、小委員会を開催予定である。
- ・学部FD部会の案内により、「FDセミナー」では、四国でのSPODに1名参加、「FDワークショップ」では、アクティブラーニングのワークショップが年2回開催され、延べ5人参加、「学生とFD部会委員との懇談会」では、年1回開催し、8人が参加した。
- ・現代社会学部も前期末と後期末に「授業改善アンケート」を実施した。
- ・「新任教員ガイダンス（教育開発センター主催）」については、現代社会学部の新任実習助手が参加した。
- ・現代社会学部のボランティア・インターンシップ運営委員会の4人のメンバーを中心に、全教員と実習助手も加わり、メール会議も含めて、議論を重ねた。
- ・現代社会学部「オムニバス必修科目の成績評価について」は、教授会において、意思統一を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・いずれも、平成26年度を含めて、これからの授業改善のための取り組みとなる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業改善アンケートは、前期末と後期末に実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・教育開発センターの方針に従い、平成26年度より、Webで履修学生に対して公開した。

アンケート実施科目において、教員は学生からの質問には、Web上で回答し、学生はそれの閲覧が可能である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙・資料2のとおり

② 自己点検・評価報告書

【全学】

教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表することを学則、大学院学則に規定している。

本学の自己点検・評価を司る組織として、自己点検・評価に関する基本的な事項を審議し決定する自己点検評価委員会を設け、そのもとに各組織にかかる事項の自己点検・評価を実施し、当該報告書を作成するために、30以上の自己点検評価小委員会を置いている。さらに、自己点検・評価の内容等を第三者的な立場で検証するため、学外の学識経験者を構成員に含んだ自己点検評価結果検証委員会を設置するなど、体制を充実させ、積極的に自己点検・評価に取り組んでいる。

具体的には、平成24法人創立100周年を機に平成25年度から5年間に実施する施策をまとめた「中期行動計画」の年度毎の進捗評価を、「年次達成度報告書」でもって行うことを自己点検評価委員会で決定し、自己点検・評価を実施している。

なお、平成24年度の自己点検・評価をとりまとめた「2012年度改革・改善報告書」において、改革・改善が完了していない項目についても、「年次達成度報告書」でもって自己点検・評価を行った。

平成25年度、平成26年度ともに各年度の「年次達成度報告書」で自己点検・評価を行った。平成25年度の自己点検・評価の結果については、平成26年度に本学のホームページ上で公表を行った。平成26年度の自己点検・評価の結果の公表については、次項のとおり公表を行う予定である。

【現代社会学部】

現代社会学部の所管する事項についての具体的な施策を、「中期行動計画」として定めた。自己点検評価委員会
のものと現代社会学部小委員会にて、その実施状況等に関する自己点検・評価を行い、「中間報告書」「年次達
成度報告書」としてまとめた。

a 公表（予定）時期

【全学】

平成26年度の「年次達成度報告書」は、自己点検評価結果検証委員会において検証され、検証結果に基づき各自己
点検評価小委員会にて加筆・修正するなど学内手続きを経て、平成27年度内に公表する。

【現代社会学部】

現代社会学部の「年次達成度報告書」も全学的な「年次達成度報告書」の中に組み込み、検証のうえ、公表した。

b 公表方法

【全学】

・大学ホームページ上で公表する予定である。

【現代社会学部】

・大学ホームページ上で公表した。

③ 認証評価を受ける計画

【全学】

認証評価（公益財団法人大学基準協会）を平成30年度に受審する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を
含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書につ
いて記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成27年 7月 1日)